

case 04

株式会社バイオシルバー

| | | |
|--|---|--|
| プロジェクト名 | 心拍・呼吸・体動・睡眠状態といった生体情報から、疾病・重症化リスク・その他各種異変を予測するAIシステムの開発 | |
| 企業の所在地 | 神奈川県横浜市港北区新横浜2-14-4 シルバービル1階 | |
| 企業の事業概要 | センサーを使った製品の製造・販売・受託開発 | |
| 実現しようと しているサービス | 想定顧客 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者見守り介護ロボット市場、医療機関・介護施設・在宅 (想定ユーザー：要介護1以上高齢者) |
| | 想定顧客が 抱える課題 | <ul style="list-style-type: none"> 【見守り・異変予測精度のばらつき】高齢者見守りの現場では、「異変の検知・お知らせ」から、「疾病・重症化リスク・その他各種異変」を予測することが重要であるが、介護者の習熟度によって予測精度にばらつきがある。 |
| | サービスが 提供する 価値 | <ul style="list-style-type: none"> 【異変予測の高品質化・均一化】センサーマットが取得する生体情報（心拍・呼吸・体動・睡眠状態）から、体調の異変、疾病の予兆を予測するAIを開発することで、介護者の習熟度に依存することなく、利用者の体調異変や疾病の予兆を事前に感知することができる。 |
| 開発・実証 プロジェクトで 取り組んだ内容、 県内企業との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 機能・仕様を集約、実現させるための仕様検討 <ul style="list-style-type: none"> ◆「転倒予防」と「体調変化検知」の2軸に体系化 データの取得・解析 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 転倒、発熱、入院などインシデントにつながるデータを抽出 ➡ 不要な情報を削除の上、データの標準化を行うことで解析結果の信頼性を向上 AI搭載サーバの構築 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 遠隔運用に耐える処理能力と低コストを両立した、スケーラブルなAI解析基盤を構築 ◆ 介護施設での実証実験を実施。入居者の動きからAIが判定した「危険・注意・配慮」の3段階表示が、実際の入居者の動作やリスク状態と一致しているかを確認 <p>AI活用による異変予測の高品質化・均一化を実現した結果、実際に異常検知アラートからインシデントを未然に防ぐことに繋がり、本サービスの有用性を確認。より多様な症例・環境下での検証データを蓄積し、解析アルゴリズムの確度をさらに高める (神奈川県内の特別養護老人ホームにて実証実験を実施)</p> | |



生体情報を収集するデバイス「aams（アアムス）」



職員管理画面の表示イメージ（アラート発報の様子）

<問い合わせ先>

株式会社バイオシルバー（担当：今井） WEB：<https://www.biosilver.co.jp/> メール：info@biosilver.co.jp